

U.S. Indicators

発表日: 2020 年 2 月 14 日(金)

米国消費の緩やかな拡大を示唆(20 年 1 月小売売上高)

～コア小売のモメンタム悪化に歯止め～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:03-5221-5001)

小売・飲食サービス売上高 (Retail and Food Services Sales)

	除く車			耐久財関連 (*1)				非耐久財関連 (*2)		
					自動車	家具	家電		衣料品	ガソリン
19/01	+1.4	(+2.7)	+2.2	▲0.1	▲1.9	▲0.4	+1.6	+2.5	▲1.0	▲1.1
19/02	▲0.6	(+1.9)	▲0.6	▲1.7	▲0.6	+0.1	▲2.5	▲0.3	▲1.3	+3.8
19/03	+1.8	(+3.8)	+1.4	+2.6	+3.4	+1.4	+0.8	+1.6	+2.1	+3.3
19/04	+0.4	(+3.8)	+0.6	▲0.5	▲0.4	+0.8	▲1.1	+0.7	▲0.2	+1.6
19/05	+0.5	(+3.0)	+0.5	▲0.0	+0.4	▲0.1	+1.1	+0.7	▲0.1	▲0.2
19/06	+0.4	(+3.3)	+0.3	+0.6	+0.7	▲0.4	▲0.5	+0.2	+0.2	▲2.5
19/07	+0.7	(+3.5)	+0.9	+0.3	+0.1	+0.4	+0.9	+1.0	+1.2	+1.7
19/08	+0.6	(+4.4)	+0.2	+1.8	+2.0	+0.1	▲0.8	+0.0	▲1.2	▲1.2
19/09	▲0.4	(+4.0)	▲0.2	▲1.0	▲1.1	+1.1	+0.5	▲0.4	+0.1	▲0.1
19/10	+0.3	(+3.1)	+0.2	+0.7	+1.1	▲0.7	▲0.8	+0.3	▲0.2	+2.0
19/11	+0.2	(+3.3)	▲0.2	+1.2	+1.6	+0.0	▲0.5	▲0.1	▲0.1	+0.6
19/12	+0.2	(+5.5)	+0.6	▲1.0	▲1.7	▲1.6	+0.4	+0.5	+2.7	+1.7
20/01	+0.3	(+4.4)	+0.3	+0.5	+0.2	+0.6	▲0.5	▲0.1	▲3.1	▲0.5

(注) 数字は季調済前月比。但し、() 内は前年同月比 (未季調)。

*1: 耐久財関連は、自動車・家具・家電・建材関連の売上合計。

*2: 非耐久財関連は、小売売上高の合計から、耐久財関連を除いたもの。

20 年 1 月の小売・飲食サービス売上高 (速報値、季節調整値) は、前月比+0.3% (前月同+0.2%) と加速した。市場予想中央値と一致したが、11、12 月合計で 0.2% p 下方修正されており、実態は予想よりも弱い (筆者予想同+0.4%)。また、変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は、前月比+0.3% (前月同+0.6%) と減速した。市場予想中央値と一致したが、11、12 月合計で 0.3% p 下方修正されており、実態は予想よりも弱い (筆者予想同+0.2%)。

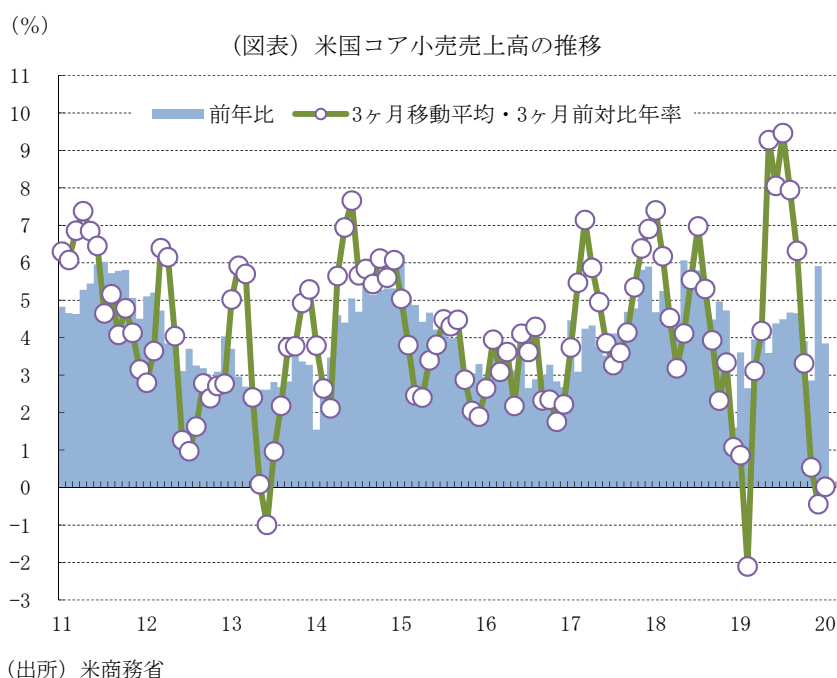
1 月の小売売上高は、衣料品が前月の高い伸びの反動等で前月比 3.1% 減と 09 年 3 月以来の大幅な減少を記録したほか、ガソリン、家電が価格下落により減少したにもかかわらず、良好な雇用・所得環境の持続や、緩和的な金融環境による資産価格の上昇等に支えられ拡大を続けた。

小売売上高の基調を判断するうえで重要なコア小売売上高 (自動車・ガソリン・建材を除く小売・飲食サービス売上高) は、前月比+0.2% (前月同+0.4%) と鈍化したうえ、11、12 月合計で 0.1% p 下方修正された。ただし、コア小売売上高の基調をみると、3 ヶ月移動平均・3 ヶ月前対比年率で 1 月に 0.0% (12 月▲0.4%) とマイナスから脱却したほか、10-12 月期対比年率+1.7% と 10-12 月期の前期比年率▲0.4% (速報の▲0.2% から下方修正) から、プラスに転じており、小売売上高の基調悪化に歯止めがかかったことを示唆している。2、3 月に、ガソリンが減少を続ける一方、衣料品が増加するとみられ、小売売上は小幅の拡大を継続すると予想される。また、1-3 月期のサービス消費は医療費などへの需要の増加傾向によって緩やかな拡大を維持し、消費全体を支えとみられる。

以上を考慮すると、1-3 月期の実質個人消費は、前期比年率+2.2% 程度 (10-12 月期同+1.8%) と緩やかに拡大すると予想される。

1月の小売売上高は、雇用・所得の増加傾向、株価・不動産等の資産残高の増加が続くなか、衣料品、ガソリン販売が減少したが、飲食店や建設資材などの増加によって、拡大ペースを維持した。業態別では、家電、ガソリンスタンド、衣料品が減少に転じたほか、食品・飲料は鈍化した。また、薬局が減少を続けた。一方、自動車・同部品、家具、スポーツ用品・本・趣味用品、その他小売、通信販売が増加に転じたうえ、建設資材、百貨店など一般小売が加速し、飲食店は堅調さを維持した。

1月の小売売上高の前月比（+0.26%）の寄与度をみると、押し下げ寄与となった業態は衣料品▲0.13%、ガソリンスタンド▲0.04%、薬局▲0.02%、家電▲0.01%。一方、押し上げ寄与となった業態は高い順に、飲食店+0.15%、建設資材+0.13%、百貨店を含む一般小売+0.05%、その他小売り+0.05%、通信販売+0.04%、自動車・同部品+0.03%、食品・飲料+0.02%、家具+0.01%となった。スポーツ用品・本・趣味用品は0.00%にとどまった。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。